

災難の中でも満開

一字一筆

静岡の今

95

春は花、花は桜である。静岡地方気象台が静岡市で桜(ソメイヨシノ)の開花を観測したのは3月27日。昨年より1日早く、平年より2日遅かった。開花から1週間から10日で満開となり、その1週間後には散り

始めるといふから県内は今、まさに満開の時期である。

今年の桜は、不幸を背負っている。日本の花見を代る会(東京・新宿御苑)をめぐる疑惑が国会で問題になったのは昨年11月で、今咲き誇る花はまだ花芽として冬眠している頃だった。野党は「税金と国家の

私物化」として追及、今年の開催は中止となった。

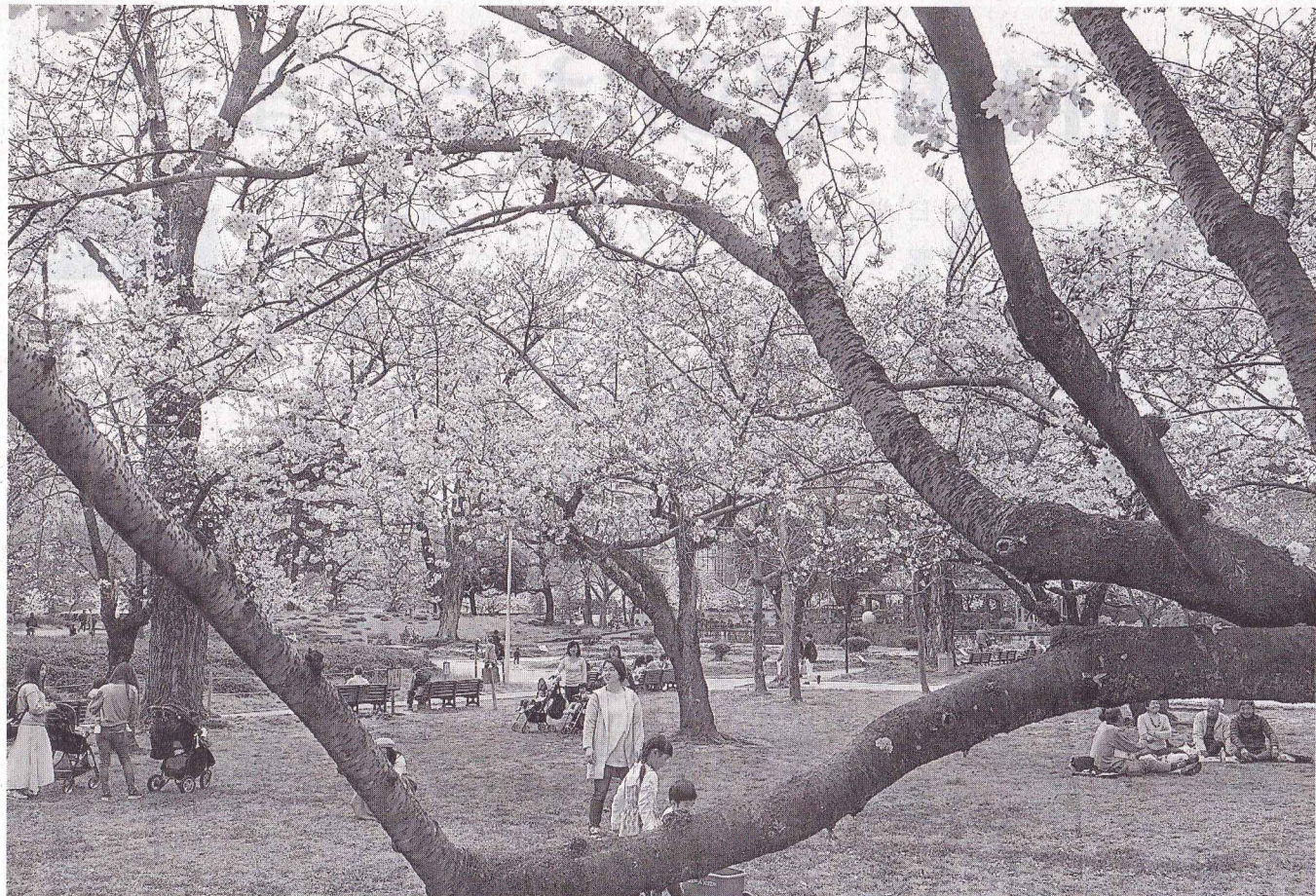
今年、桜の災難は、それだけではなかった。新型コロナウイルスの蔓延である。「不要不急の外出」の自粛要請が、各地の花見の出足を鈍らせている。さらに感染拡大防止で「3密」(密閉、密集、密接)を避けるよう求められ、ほとんどの桜名所には「花見宴会の自粛」表示が出されている。

県都静岡市の桜の名所「駿府城公園」でも、車座で缶ビールを飲む「会社の花見」風景がすっかり消えた。密集を避けて、歩きながら桜を見上げるマスクの白さが、花見の高揚感に水を差していた。

例年、この時期の「静岡まつり」では徳川家康ゆかりの「大御所花見行列」が駿府城公園から市中に繰り出す。満開の桜と華やかな花見行列が、県都に「春本番」を告げる。この祭りのほか、茶どころ静岡恒例の新茶初取引の式典や夏の安倍川花火大会も新型コロナウイルスのため中止となり、静岡市から季節のシグナルが次々と消えた。

わが家の庭に、1本の桜の老木がある。結婚記念に植えて50年、今年もつぼみを膨らませていたことは2月中旬の当コラムで書いた。今、満開である。「外出」も「密集」もない庭の桜を、二人で楽しんでいる。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



駿府城公園の花見＝静岡市、全日写連・中村明弘さん撮影